

開講セメスタ・履修形態	2年次・秋学期・昼・選択	科目分類	情報・統計系	応用・実践科目
授 業 科 目 名	IT利用監査	担当教員	石島 隆	
授 業 テーマ・目的	今日の企業は、IT（情報技術）を利用して基幹業務処理を行うとともに、eコマースの展開など営業面でもITを積極的に活用している。特に大企業においては、事業の多様化・グローバル化、取引の複雑化と件数の増大により、ITの活用なくしては企業の存続・発展が危ぶまれる状況である。このような企業側の変化に対応して、監査人側でも監査実務へのITの有効活用を進めているが、未だ十分とは言えないのが現状である。そこで、本授業では、監査実務の高度化に資するITを利用した監査の進め方とツールの活用方法を学ぶ。			
達 成 目 標	CAATs（Computer Assisted Audit Technics：コンピュータ利用監査技法）の基本的理解とCAATsツールの利用の仕方の習得を目標とする。			
授 業 の 形 態	講義形式70% 実習形式30%			
評 価 方 法	期末考査（レポート）40%、講義・実習での取り組み方60%			
履修者への要望 （履修条件等）	パソコン及びExcelの基本的操作ができること。			
授 業 内 容				
第 1 回	<p><CAATsの概要とその有用性および利用局面></p> <p>CAATsの概要とその有用性および利用局面を理解するために、CAATsの種類、準備と実施のステップ、内部統制の統合的フレームワークとの関係、データへの依拠リスク、データの検証の意味、CAATsを活用した監査の品質管理等について解説する。また、日本公認会計士協会の実務指針及び研究報告におけるCAATsの取り扱いについても言及する。</p>			
第 2 回	<p><CAATsに必要なIT知識（1）会計情報システムの全体像></p> <p>CAATsに必要なIT知識として、会計情報システムの全体像を理解するために、企業全体の情報システムにおける会計情報システムの位置づけ、会計情報の概念と会計情報データベース、会計情報システムが具備すべき要件、会計情報システムと他のシステムとのインターフェイス等について解説する。</p>			
第 3 回	<p><CAATsに必要なIT知識（2）総勘定元帳システム></p> <p>会計情報の処理プロセスの基本である総勘定元帳の作成に関する処理プロセスについて、データが加工・集計されていく過程を具体例で示すことによって、総勘定元帳システムの機能とデータ構造を解説する。また、自動仕訳の概念と作成ロジックを解説し、各種の業務管理システムとの連携関係について学ぶ。</p>			
第 4 回	<p><CAATsに必要なIT知識（3）販売系システム></p> <p>販売系の業務管理システムについて、新規取引、販売促進、受注、出荷、売上計上、請求、入金という業務プロセスに沿って、パッケージソフトの機能及びデータ構造と関連させて解説する。また、販売系業務プロセスにおけるITを利用した内部統制機能との関連についても学ぶ。</p>			
第 5 回	<p><CAATsに必要なIT知識（4）購買系システム></p> <p>購買系の業務管理システムについて、仕入先選定、発注、検収、仕入計上、請求書照合、支払という業務プロセスに沿って、パッケージソフトの機能及びデータ構造と関連させて解説する。また、購買系業務プロセスにおけるITを利用した内部統制機能との関連についても学ぶ。</p>			

授 業 内 容	
第 6 回	<p>< C A A T s を利用した監査業務の全体像 ></p> <p>C A A T s を利用した監査業務の全体像について、①目的の設定と計画の策定、②監査先との合意、③対象データの特定と依頼、④データファイルの入手、⑤データ分析、⑥レビュー、⑦報告、⑧監査調書の保存という流れに沿って解説する。</p>
第 7 回	<p>< データ分析 (1) データの取り込みと信頼性の検証 ></p> <p>入手したデータファイルの C A A T s ツールへの取り込み及びデータの信頼性を検証するための手法についての解説し、事例データを用いた実習を行う。データの信頼性の検証においては、データの型の検証、レコードの件数、数量又は金額フィールドの合計、連続しているデータの漏れや重複の検索などの C A A T s ツールの機能を用いる。</p>
第 8 回	<p>< データ分析 (2) データのプロファイル分析 ></p> <p>入手したデータ全体の傾向分析の手法として、区分コード等による分類化、クロス集計、数値の範囲による階層化、債権・債務・在庫等の年齢調べについて解説し、事例データを用いた実習を行う。</p>
第 9 回	<p>< データ分析 (3) データの抽出、並べ替え、結合 ></p> <p>入手したデータファイルからの特定の条件のデータの抽出、特定の順序による並べ替え、複数の関連するファイルを結合する手法について解説し、事例データを用いた実習を行う。</p>
第 10 回	<p>< 統計的サンプリング (1) 基礎的な概念と手法 ></p> <p>監査基準委員会報告書 530「監査サンプリング」に基づいて監査サンプリングの基礎的な概念を解説した上で、統計的サンプリングと監査手続との関係について学ぶ。</p>
第 11 回	<p>< 統計的サンプリング (2) 監査手続への適用例 ></p> <p>統計的サンプリングによる試査の対象(科目、残高、取引明細、取引先など)の抽出方法について、レコード単位サンプリングと金額単位サンプリングの方法と効果を解説し、事例データを用いた実習を行う。</p>
第 12 回	<p>< 販売取引プロセス及び売上債権の監査手続への適用 ></p> <p>販売取引プロセス及び売上債権の監査手続における C A A T s の活用について、運用評価手続、実証手続としての分析的な手続、取引及び残高の詳細テストにおける利用方法を解説した後、事例データを用いた実習を行う。</p>
第 13 回	<p>< 購買取引プロセス及び仕入債務の監査手続への適用 ></p> <p>購買取引プロセス及び仕入債務の監査手続における C A A T s の活用について、運用評価手続、実証手続としての分析的な手続、取引及び残高の詳細テストにおける利用方法を解説した後、事例データを用いた実習を行う。</p>
第 14 回	<p>< 棚卸資産の監査手続への適用 ></p> <p>棚卸資産の監査手続における C A A T s の活用について、運用評価手続、実証手続としての分析的な手続、取引及び残高の詳細テストにおける利用方法を解説した後、事例データを用いた実習を行う。</p>
第 15 回	<p>< 総まとめ ></p> <p>本授業の総まとめとして、財務諸表監査における C A A T s の活用について、監査の局面ごとの利用方法を整理するとともに、不正会計に対応した監査シナリオを用いたアプローチについて解説する。</p>
テキスト	『監査人のためのコンピュータ利用監査技法 C A A T の実践』 弓場啓司監修、荒井千晶・水田朋子・伊藤公哉著(清文社)
参考図書	『Excelによる不正発見法 C A A T で粉飾・横領はこう見抜く』 村井直志(中央経済社)